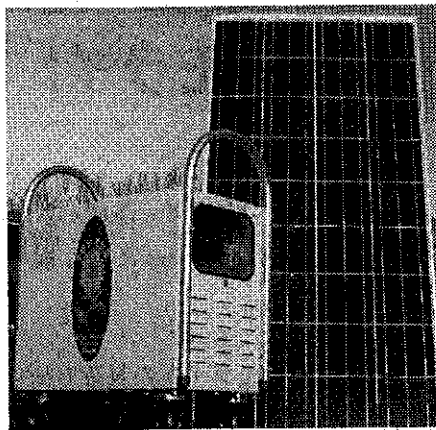


移動充電の太陽光発電機

日本建築照明・防災電源向け



利便性に電源非常用や非常用電源に利用する（奥）
蓄電池（奥）
ソーラーパネル（手前）
照明や非常用電源に利用する（手前）
屋内外で利用可能

【大分】日本建築工業（大分市、池辺和寿社長、097・545・2554）は、米サンランナー（バーシニア州）製の移動充電式太陽光発電機「サンランナー」を発売した。屋内外の照明や防災用電源として利用する。価格は175万円。初年度50台の販売を目指す。

日本での独占販売権を獲得したサンランナーは、出力135ワットの太陽電池パネル2枚と蓄電池5キロワット。蓄電池は高さ76センチ×幅38センチ×奥行71センチ、重量118キロワット。蓄電容量は2キロワット時。昼夜、雨天を問わず蓄電だけで連続12時間利用可能。日中に太陽電池パネルと合わせて利用した場合の最大出力は3・5キロワット。

池辺社長は「既存の市販品に比べて重量、価格には3分の1程度。蓄電池にはキャスターが付いているので移動も便利」と差別化されている点を強調。今後全国に代理店を設けて販売する。日本建築工業は省エネ機器の輸入販売を手がける。2010年6月期の売上高は約1億5000万円。11年4月にサンランナーと輸入販売総代理店契約を結んだ。

蓄電池の導入

東日本大震災後、太陽光発電（PV）採用者の91%が蓄電池にも興味。積水化学工業住宅カンパニーの研究調査機関である住環境研究所（東京都千代田区、倉片恒治所長、03・3256・7571）が22日発表した調査報告によると、消費者の蓄エネ機器への高い関心が明らかになった。

太陽光ユーザー 震災で興味拡大

た。PV非採用者の蓄電池への関心も84%と高い割合になった。アンケート「PV採用者の震災後の意識と行動に関する調査」は、7月にPV採用者716件、非採用者1037件を対象にウェブを使い調べた。PV採用者の蓄電池への関心は「かなり関心」が34%、「ある程度は関心」が57%だった。災害時や停電時の非常用電源として蓄電池に期待するほか、昼間のP

「関心」91% 住環境研調べ

V発電や夜間電力の蓄電でエネルギーを自立化できることにも関心が高い。またPV採用者にPVに対する周囲（同居する家族を除く人々）の反応を聞いたところ、「以前より話題になることが増えた」と東日本在住者の62%、西日本在住者の34%が回答した。電力不足問題が長期化する中で、多くの消費者が創エネ・蓄エネ機器の導入を前向きに考えているようだ。